

大麻、覚せい剤…薬物に手を出す若者のニュースを目にすることが珍しくない。だが、薬物依存症に陥ると完治は難しく、使わない努力を一生続けなければな

らない怖さまでは意外に知られていない。若者を取り巻く薬物依存の現状を、上下で紹介する。まず岐阜市在住のユキさん(22)＝仮名＝のケースから。

若者の薬物依存

上 ユキさんの場合

正面にある洗濯挟みがく
るくる回って、UFOみたい
に飛び、体に刺さってき
た。「わぁー」と悲鳴を上
げて、電気をつけた。ユキ
さんが体験した幻覚症状
だ。十五歳でシンナーを始
め、十六歳の時には覚せい
剤を使うようになった。
「幻聴幻覚はほかの人に比
べると少なかった方だけ
ど、本当に怖かった」

両親の仲がうまくいって
いない家庭で育った。家族
の中で体が固まり、親の顔
色をうかがうこともあった
小学生時代。よく読んだ漫
画に「クスリを使つヤンキ
ーが出てきた。なんとなく
かっこよくて、クスリに興
味を持った」。

でも中学ではまじめな生
活だった。髪も黒く、スカ
ートの丈は規定の長さ。た
だ髪を染めたちょっと「や
んちゃ」な同級生にあこが
れ、たまたま教え合った携
帯電話で声を掛けて休日
一緒に遊ぶこともあった。

治りにくい病気が知って

幻覚、洗濯挟みがUFOに

高校に入学して「ずっと
やってみたかった」化粧を
し、服装も派手になった。
疎遠になっていた同級生に
連絡を取り再会。名古屋の
彼女の自宅でシンナーを吸
入りをしたかった。悪いこ
とをすると、自分が強くな
り、かっこいいと思えた」
高校に行かなくなり、親
の援助で名古屋の繁華街、
金山駅近くに住んで、遊ん
だ。知り合った女の子に覚
せい剤を誘われ、最初は火
であぶって煙を吸う「あぶ
り」。その後、年上の男性
に注射を打たれた。「初め
は怖かったけど、興味もあ
り断れなかった」という。

出席日数が足りなくなり
高校を中退。覚せい剤を買



自らの体験を語り、仲間の話を聞くタルク
のミーティング＝岐阜市の岐阜タルクで

安定になり病院に行った。
「眠れない」とつそをつき
睡眠薬を大量にもらった。
手のひらいっぱい飲んで、
毎日寝ていた。

転機はそんな時に訪れ
た。ユキさんに母親が「タ
ルクに行ってみない」と声
を掛けたのだ。薬物依存症
からの回復を支援する民間
組織。母親と行った岐阜タ
ルク(岐阜市)で「依存症
は病気。一人では薬をやめ
られない」と言われ、治療
が始まった。

薬を切るための入院、県
外にあるタルクへの入寮。
今は岐阜タルクと名古屋タ
ルク(名古屋)に通う。
薬物依存に悩む人が集まり
ミーティングを重ねる。自
らの経験を語り、相手の話
を聞くことで自分を見つめ
直す。もう一年がたった。
中学や高校に講演に行く
ことがある。自分自身は小
中学生の時、薬物の乱用で
幻覚や幻聴が現れると聞い
ても信じなかった。「心身
がぼろぼろになって後悔し
た。薬物依存はなかなか治
らない病気。私の体験も含
め、こういう現実があるこ
とを知っておいてほしい」